

学習指導要領における指導事項等

【指導事項】

- ・言葉には、物事の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付く。

[ 知識及び技能 ](1)ア

- ◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。

[ 思考力・判断力・表現力等 ]A(1)オ

- ・言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

[ 学びに向かう力、人間性等 ]

【言語活動】

- ・尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。

1 単元名

はなしをたのしくつないでおはなし名人になろう

教材名 なにに見えるかな(東京書籍1下)

2 単元について

(1) 単元観

本単元の重点指導事項は、小学校学習指導要領における[ 思考力・判断力・表現力等 ]の「A 話すこと・聞くこと」(1)オ「互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。」を取り上げて指導する。本単元は、「A 話すこと・聞くこと」の「話し合う」の系統に位置付けられる最初の単元であり、相手の言葉を繰り返したり質問したりして、話をつないでいくことができるようになることと、相手の話を受けて話をつないでいく楽しさや、自分の話を受け止めてつないでもらう喜びを感じられるようにすることをねらいとしている。そこで、本単元では、並べた木の実や葉が、どのように見えたのかについて話し合うという言語活動を設定した。同じ作品を見ても、そこから想像するものが同じとは限らない。友達と考えが違うことを楽しんだり、同じことを喜んだりしながら話合いに取り組むことができるだろう。さらに、教室のお勧め図書コーナーに秋の自然物についての図鑑や関連図書を設置し、児童が常時、自由に手に取って見たり読んだりできるようにすることで、単元の学習の指導のねらいをよりよく実現させることにつながると思う。

(2) 児童観

児童は、好奇心旺盛で、興味があることや新しいことに意欲的に取り組む姿が見られた。特に、クイズ形式を活動の中に取り入れると、意欲的に発言することができる。一学期は、自分の思いを言葉で伝える力を付けるため、授業の中でペア対話を積極的に設定した。児童は、「まず」「次に」などの順序を表す言葉を使いながら自分の考えを説明したり、自分の話が伝わるように声の大きさについて考えながら話したりしてきた。「A 話すこと・聞くこと」の領域においては、大事なことを聞き逃さないように集中して聞くこと、経験したことを簡単にまとめて皆の前で話すこと、友達

の話聞いて感想を伝えたり質問したりすることを学習してきている。しかし、授業において、相手の話を集中して聞くことに課題がある児童や、思うように自分の思いを言葉で伝えることが難しい児童もいる。また、相手が伝えようとしている内容に注意を向けて聞くことが難しい児童もいる。

### (3) 指導観

単元を通して、一つの話題に沿って、話したり聞いたりして言葉をつなぐという話合いの基本を楽しんで身に付けさせていく。

指導に当たっては、生活科の秋見つけの学習と関連させ、事前に落ち葉や木の実を使って作品を作成させる。秋見つけの際は、園での秋遊びの経験を想起させたり、秋の自然物を使ってやってみたいことを図鑑や本から考えさせたりして、児童の興味、関心に沿って十分に秋を楽しませるようにする。秋遊びを通して、満足感や達成感を味わわせることで、自分の作品を紹介したいという気持ちを高めさせる。作品は一つだけではなく、いくつも作成してよいことを伝え、作成した作品をタブレット端末で撮影しデータを複数保存させる。作成した作品の中から一番のお気に入りを選んで友達に紹介することを伝えるようにする。どの作品を選んで紹介するのかは、紹介する当日まで友達に明かさないように伝え、紹介する楽しみをもたせるようにしたい。

第一次では、9月の「話すこと・聞くこと」の単元である「はなしたいなききたいな」の学習時の交流場面を動画で見せ、自分たちが話している様子から、良いところや既習事項が活かされているところなどを確認させ、さらに話合いを楽しくするにはどうしたらよいか考えさせる。また、教員同士の対話の良い例と悪い例の動画を比較させ、「自分も楽しく話をつないでみたい」という意欲を高めさせる。そして、教科書に掲載されている写真をもとに、並べた木の実や葉がどのようなものに見えたのかについて話し合わせて学習の見通しをもたせる。

第二次では、教科書の写真について想像したことを、話す役を交代しながら、ペアで繰り返し話し合わせる。話合いを一回終えるごとにできたことや困ったことを発表させたり、新しく見つけた言葉や仕草を出し合わせたりして、話合いがより豊かになるようにしていきたい。ペアで話をつなぐことに慣れてきたら三人グループで話し合う形態にする。児童や教員の良い例を取り上げ考えさせることで、楽しく話し合うための言葉や仕草に気付かせたい。第5時では、それまでに見つけた話を楽しくつなぐ言葉を使って、自分達が作った作品について発表し合う活動を設定する。発表の際は、タブレットで撮影した作品を見せ合いながら紹介させる。言葉だけの説明よりも視覚支援があることにより、聞き手も興味をもって話を聞くことができ、質問の幅も広がると考えられる。ペイント機能で想像した見立てを写真に書き込むことで、言葉の情報だけでは伝えづらいことを、視覚でも伝えることができるため、楽しみながら効率的な学習を進めることができるだろう。教員からの一方通行の授業ではなく、児童がタブレットを使うことにより主体的・協働的な学習となることも期待している。さらに、児童が安心して自分の思いを表現できるよう、紹介するための話型や今まで児童が集めてきた話を楽しくつなぐこつを掲示し、確認しながら自分の作品を紹介できるようにする。また、友達の言葉にうなずきながら聞いたり、友達の方を見ながら話し合ったりしている児童を評価し、共感的に話し合える態度の育成につなげたい。

第三次では、本単元で身に付いた力を確認し、自らの成長を感じられるようにするとともに、次の学習や実生活における話合いへの意欲を高めるようにする。本単元を通して、頑張ったことやできるようになったこと、難しかったことなどを振り返り、学んだことをこれからの学習や生活の中で役立てていけるようにつなげていきたい。

#### (4) 幼保小の接続を意識した指導

本校の児童は、就学前に、朝の会や帰りの会で自分の思いを言葉で伝えたり、参観日などで友達や保護者に感謝の気持ちを伝えたりするなど、設定されている場面で経験したことや考えたことを言葉で伝える経験をしてきている。しかし、友達と話すときなどは、自分の気持ちを相手に伝えることがうまくできないことも多く、その際は、自分の思いを保育者に代弁してもらったり、話合いに立ち合ってもらったりするなど、保育者を介して相手に自分の気持ちを伝える様子が見られたということであった。

就学後、「言葉による伝え合い」の観点で児童の4月の実態を観察してみると、授業において、相手の話を集中して聞くことに課題がある児童や、思うように自分の思いを言葉で伝えることが難しい児童が見られた。また、1年生担当教員を対象に行った「スタートカリキュラム実施時期の児童の様子に関する調査」によると、担任の多くが、「聞くこと」において、相手が伝えようとしている内容に注意を向けて聞くことが難しい児童がいる等、聞く態度に課題を感じていた。「話すこと」においては、自分の意見を表現することが苦手な児童が多いと感じていた。

以上のような実態を踏まえ、幼保小の接続を意識した指導をするに当たっては、児童が「話してみたい」「聞いてみたい」という思いをもてるような単元づくりや言語活動の導入により、自らの思いや願いを実現できるようにしていきたい。そこで、保育者が生活や遊びの中で大切にしてきたこと、保育に取り入れてきた環境構成や援助等を小学校の授業に生かすために、この単元では、接続を意識した指導をする上で、大切にしたいことを以下のように設定した。

- (ア) 児童が言葉で伝えたいような課題を設定する。
- (イ) 自分の考えを伝え、教員や友達が話を聞いてくれる中で、相手と思いを共有することの楽しさや良さを実感できるようにする。
- (ウ) 児童の状況に応じて、言葉を付け加えるなどして、児童同士の話が伝わり合うように支援する。
- (エ) 学校生活の中で身近なことを表す言葉などに触れさせ、児童の使用する語句の量を増やす。
- (オ) 児童が安心して自分の思いを表現できるように、児童の言葉をしっかり受け止め、信頼関係を構築したり、児童が自己発揮できるような環境を整えたりする。

具体的には、「意欲をもたせるために、クイズ形式を活動の中に取り入れた」という保育者の援助を踏まえ、毎時間教員が作成した「なにに見えるかなクイズ」を位置付ける等、児童の発言を促すような指導を授業の中に取り入れる。また、園において、幼児が自分の思いを言葉で表現することが難しい際には、保育者が幼児の思いを受け止め、その思いを言語化したり伝え方を提案したりして「言葉による伝え合い」ができるように援助を行っていたことを踏まえ、小学校の授業においても、児童が安心して自分の思いを表現できるよう、紹介するための話型や今まで子供たちが集めてきた話を楽しくつなぐこつを掲示しておき、確認しながら自分の作品を紹介できるようにしたい。そして、教員が児童の話す言葉に共感的に耳を傾け、話題に沿って話すことで、相手と思いを共有することの楽しさや良さを実感できるように支援したい。

### 3 単元の目標

(1)言葉には、物事の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。 [知識及び技能](1)ア

(2)互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。 [思考力・判断力・表現力等] A(1)オ

(3)言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

### 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
言葉には、物事の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。[(1)ア]	「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつないでいる。[A(1)オ]	進んで、互いの話に関心をもって聞き、学習の見通しをもって話をつなごうとしている。

### 5 指導と評価の計画 (全6時間)

次	時	○学習活動	・指導上の留意点 ◎幼保小接続を踏まえた指導の工夫	【評価】 評価方法等			
				知	思	態	評価規準
一	1	○学習課題をつかみ、話し合うことに関心を持ち、学習計画を立てる。	◎生活科で作成した作品の中から一番のお気に入りを選んで友達に紹介することを伝え、活動への意欲を高める。 【接続(ア)】 ◎学習課題に興味・関心がもてるように、教室内に関連図書を設置し、児童の学習意欲を高める。 【接続(オ)】 ◎これまでに、楽しく話をつないだ経験を想起させ、話合いを楽しくつなげるにはどうしたらよいかを考えさせ、児童の意見を取り上げながら学習計画を立て、教室に掲示し、児童が学習の見通しをもつことができるようにする。 【接続(エ)】				
	2	○提示された写真を見て、思い付いたことや質問したいことを発表する。 ○自分が紹介する作品について、出てきそうな質問を考え、紹介文をノートに書く。	◎導入に「なにに見えるかな」クイズを設定し、児童の発表したい意欲を高める。 【接続(ア)】 ・教員が教科書に掲載されている写真を提示して、何に見えると思ったかを話し合わせる。このとき、どんな質問ができそうかも合わせて考えさせる。		○		ワークシート・ノート ・友達と楽しく話をつなぐために、自分が紹介する文章を考えているかの確認。

二	3	<p>○話を楽しくつなぐ言葉を意識しながら、ペアで提示された写真について話し合う。</p>	<p>◎話し合いごとに、新しく見付けたことや困ったことなどを共有させ、気付いた案を使って話し合いが続くよう支援する。</p> <p>【接続(ウ)】</p> <p>◎児童が見付けた話を楽しくつなぐ言葉は、話し合う際に活用できるように短冊に書き残し、言葉貯金として教室に掲示する。</p> <p>【接続(エ)】</p> <p>◎望ましい話し合いの仕方をしているペアやグループを取り上げ、皆の前でロールプレイさせることで、やり取りの回数を増やしたり、気付いたことを使ってみたいという意識を高めたりすることにつなげる。</p> <p>【接続(ウ)】</p>	○	<p>○</p>	<p><u>発言・行動観察</u> <u>ワークシート・ノート</u></p> <p>・話を楽しくつなぐ言葉を使って、姿勢や口形、発声や発音に注意して話しているかの確認。</p>
	4	<p>○前時に見つけた、話を楽しくつなぐ言葉を使ってグループで提示された写真について話し合う。</p>	<p>・教科書に掲載されている写真から提示した1枚に対して、三人一組のグループを作って話し合わせる。</p> <p>◎友達の話し方や聞き方の良いところを見付けて発言させる。</p> <p>【接続(ウ)】</p> <p>◎言葉貯金やつなぐ言葉、話型などを使ってよいことを伝える。</p> <p>【接続(エ)】</p>	○	○	<p><u>発言・行動観察</u></p> <p>・相手の話を受けてつなげる良さに気付き相手の発言を受けて話をつないでいるかの確認。</p>
	5	<p>○単元を通して見つけた、話を楽しくつなぐ言葉や仕草を使ってグループで自分の作品について話し合う。</p> <p>○付箋に友達の作品の感想や良いところを文字で伝え合う。</p> <p>○制作コーナーで制作する。</p>	<p>・児童が挙げた言葉や仕草を分類してまとめ、「話を楽しくつなぐ言葉の力」として共有させる。</p> <p>◎皆でまとめた「話を楽しくつなぐ言葉の力」を意識させて楽しく話し合いができるようにする。</p> <p>【接続(イ)】</p> <p>◎話し合いが終わった班は、友達に作品の感想や良いところを付箋に書いて伝え合えるようにする。</p> <p>【接続(オ)】</p> <p>◎制作コーナーに秋の自然物を設置し、友達の作品を見てやってみたい、自分の作品に付け足してみたいと思ったことが実現できるようにする。</p> <p>【接続(オ)】</p>	○	○	<p><u>発言・行動観察</u></p> <p>・互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなごうとしているかの確認。</p>
三	6	<p>○単元の学習を振り返り、学んだことをこれからどのように生かしていきたいのかを考える。</p>	<p>◎単元を通して頑張ったことや成長したと思うことを発表することで、これからの学習や実生活で活用したい場面を考えることができるようにする。</p> <p>【接続(ア)】</p> <p>・今後予定している他教科の学習活動や休み時間における会話などにおいて、児童が学んだことをどのように活用していきたいかをイメージできるようにする。</p>	○	○	<p><u>ノート・発言</u></p> <p>・学習を振り返り、頑張ったことや成長したと思うことなどを伝え合い、これからの学習や実生活で活用していこうとしているかの確認。</p>

6 全時間の学習

(1 / 6 時)

(1) 目標

学習課題をつかみ、話し合うことに興味をもつことができる。

(2) 準備物

生活科で制作した秋の作品（生活の学習で事前に作ったもの）の写真が保存されたタブレット、関連図書や図鑑、電子黒板

(3) 学習の展開

保育園・認定こども園で経験してきたこと		幼保小接続を踏まえた指導の工夫	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・劇遊びでは、劇の展開についてアイデアを出し合ったり、登場人物の台詞を考えたりしていた。</li> <li>・黒板に書かれた一日の流れや予定表を見て、文字に触れたり見通しをもって予定について話したりしていた。</li> <li>・植物を育てる中で、本や図鑑で見たことを友達と言葉で伝え合っていた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が言葉で伝えたいような課題を設定する。 【接続(ア)】</li> <li>・学校生活の中で身近なことを表す言葉などに触れさせ、児童の使用する語句の量を増やす。 【接続(エ)】</li> <li>・児童が安心して自分の思いを表現できるように、児童の言葉をしっかり受け止め、信頼関係を構築したり、児童が自己発揮できるような環境を整えたりする。 【接続(オ)】</li> </ul>	
	学習活動	・指導上の留意点 ◎幼保小接続を踏まえた指導の工夫 ☆支援を要する児童への手立て	評価規準 【観点】 (評価方法)
導入 (25分)	見通し  1 「はなしたいなききたいな」の学習時の交流場面の動画や学習後のアンケート結果を見て、「話すこと・聞くこと」の現状を知る。  2 教員同士の対話の動画を見て、気付いたことを発表する。  3 教科書の写真を見て、タブレットの写真に自分が何に見えたのかを書き込んで発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎生活科で作成した作品の中から一番のお気に入りを選んで友達に紹介することを伝える。どの作品を選んで紹介するのは、紹介する当日まで友達に明かさないように声をかける。 【接続(ア)】</li> <li>◎「話すこと・聞くこと」の前単元の学習の様子を動画で見せたり、学習後に取ったアンケート結果を提示したりして、児童に、自分たちの「話すこと・聞くこと」の現状を客観的に捉えることができるようにする。 【接続(ア)】</li> <li>◎良い例と悪い例を比較させ、「自分も楽しく話をつないでみたい」という意欲を高めるようにする。 【接続(ア)】</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットに教科書の写真をカードにして、児童に配布しておく。ペイント機能で、想像した見立てを写真に直接書き込むよう伝える。</li> <li>・児童の発表に対して、教師は相槌を打ったり、復唱して確かめたり質問したりしてやり取りをつなぐようにし、そのこつや良さを児童に気付かせるようにする。</li> <li>☆写真から何に見えるのかを想像できない児童には、正解があるものではないことを伝えて安心させたり、他の児童が発表した意見の中から近いものを発表させたりする。</li> </ul>	

<p>導入〔25分〕</p>	<p>見通し</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表を振り返り、同じ写真を見ても、見え方が同じ人と違う人がいることの面白さに気付かせ、話し合うことへの意欲をもたせる。</li> <li>・教員とのやり取りを想起させ、話し合いを楽しくつなげるにはどうしたらよいかを考えさせ、児童が気付いたことを板書する。</li> <li>・児童から出た「話を楽しくつなぐこつ」が本単元で身に付けたい「言葉の力」であることを伝え、これらが使えるようになることが学習のねらいであることをつかませる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>がくしゅうのけいかくを立てよう。</p> </div>	
<p>展開〔15分〕</p>	<p>解決活動</p>	<p>4 葉や木の実などを組み合わせて何かに見立てることや友達のを考えを聞くことを通して、話をつなぐことに興味をもち、学習課題を確かめて、学習の計画を立てる。</p>	<p>◎これまでに、楽しく話をつないだ経験を想起させ、話し合いを楽しくつなげるにはどうしたらよいか考えさせ、児童の意見を取り上げながら学習計画を立て、学習の見通しをもつことができるようにする。</p> <p style="text-align: right;">【接続(エ)】</p> <p>◎学習課題に興味・関心がもてるように、教室内に関連図書を設置し、児童の学習意欲を高めるようにする。</p> <p style="text-align: right;">【接続(オ)】</p>	
<p>終末〔5分〕</p>	<p>まとめ・振り返り</p>	<p>5 本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから頑張ろうと思うことや成長したいと思うことをノートに書いて発表する。</li> <li>・次時は、話し合いで話す内容について考えることを伝える。</li> </ul>	

(4) 板書計画

がくしゅうのけいかく

- 1 はなすことをかんがえる
- 2 はなしをつなぐことばをあつめよう
- 3 ともだちとはなす
- 4 まとめ

ふりかえり

みんなでまなぶ「ことばの力」

がくしゅうのけいかくを立てよう。

はなしをたのしくつなぐこつ

○うけとめる

「なるほど。」「ほんとうだね。」「すてきだね。」「○○なんですね。」「うなずく えがおできく

○しつもんする

「どのぶぶんが○○ですか。」「○○はなにをしていますか。」

写真

- ・ねずみ
- ・ねこ
- ・たぬき

なにに見えるかな

はなしをたのしくつないでおはなし名人になろう

(2 / 6 時)

(1) 目標

写真から想像を広げて、話し合いで話すことを考えることができる。

(2) 評価規準と評価方法

友達と楽しく話をつなぐために、自分が紹介する文章を考えているかの確認。

(3) 準備物

教科書の写真、関連図書や図鑑、ワークシート、電子黒板、タブレット

(4) 学習の展開

保育園・認定こども園で経験してきたこと		幼保小接続を踏まえた指導の工夫	
<ul style="list-style-type: none"> <li>クイズを楽しむ時間を設け、クイズを作って、出し合ったり答えてもらったりするなど、関わり合うことを楽しみながら聞いたり話したりしていた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が言葉で伝えたいような課題を設定する。 【接続 (ア)】</li> </ul>	
学習活動		<ul style="list-style-type: none"> <li>指導上の留意点</li> <li>◎幼保小接続を踏まえた指導の工夫</li> <li>☆支援を要する児童への手立て</li> </ul>	評価規準 【観点】 (評価方法)
導入 〔5分〕	見通し 1 本時の課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎導入に「なにに見えるかな」クイズを設定し、児童の発表したい意欲を高める。 【接続 (ア)】</li> <li>・本単元では、生活科の学習で作成した作品が何に見えるかについて話し合うことを確かめ、本時のめあてをつかませる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">             はなしあいではなすことをかんがえよう。           </div>	
展開 〔30分〕	解決活動 2 提示された写真を見て、思いついたことや質問したいことを発表する。  3 自分が紹介する作品について、紹介文をノートに書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いをつなぐこつの一つが質問であったことを想起させる。</li> <li>・教員が教科書に掲載されている写真を1枚提示して、何に見えると思ったかを話させる。児童に写真に対する質問を考えさせ発表させる。児童から出た質問は板書しておく。</li> <li>・友達の質問に答えられるように、自分の作品を紹介する内容を考えさせる。</li> <li>・紹介文を考え終えた児童には、さらに詳しく紹介文を付け足したり、別の作品の紹介文を考えたりしてもよいことを伝える。</li> <li>☆質問が思いつかない児童には、教員が板書の質問を用いて問いかけ、その質問の答えを考えさせるようにする。</li> </ul>	【思考力・判断力・表現力】(ワークシート・ノート) ・友達と楽しく話をつなぐために、自分が紹介する文章を考えているかの確認。
終末 〔10分〕	まとめ・振り返り 4 学習したことをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時で頑張ったことや成長したと思うことをノートに書いて発表させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">             ともだちのしつもんにかたえることができると、はなしがひろがり、たのしくはなしをつなぐことができる。           </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次時は、楽しく話をつなぐ言葉を集めることを伝える。</li> </ul>	

(5) 板書計画

なにに見えるかな

はなしをたのしくつないでおはなし名人になろう

がくしゅうけいかく

- 1 はなすことをかんがえる
- 2 はなしをつなぐことばをあつめよう
- 3 ともだちとはなす
- 4 まとめる

はなしあいではなすことをかんがえよう。

○どんなしつもんがでてくるかな。

写真

ちようちよに見えます。

「どれがなにに見えますか。」

「○○がですか。」

「どのぶぶんがですか。」

「○○はなにをしていますか。」

○しつもんのかたえをかんがえよう。

ともだちのしつもんにかたえることができると、はなしがひろがり、たのしくはなしをつなぐことができる。

ふりかえり

(3 / 6 時)

(1) 目標

教員とのやり取りやペアでの対話を通して、話を楽しくつなぐ言葉を見つけることができる。

(2) 評価規準と評価方法

話を楽しくつなぐ言葉を使って、姿勢や口形、発声や発音に注意して話しているかの確認。

(3) 準備物

教科書の写真、関連図書や図鑑、ワークシート、前時で出た「言葉の力」の短冊、考えたことを話すための話型、電子黒板、タブレット

(4) 学習の展開

保育園・認定こども園で経験してきたこと		幼保小接続を踏まえた指導の工夫	
<ul style="list-style-type: none"> <li>クイズを楽しむ時間を設け、クイズを作って、出し合ったり答えてもらったりするなど、関わり合うことを楽しみながら聞いたり話したりしていた。</li> <li>保育者が、幼児の思いを代弁したり話合いに立ち合ったりすることで、自分の思いを伝えることができていた。</li> <li>詩や歌に親しんだり言葉遊びなどをしたりすることを通して、新しい言葉や表現などに触れ、言葉で表現する楽しさを味わっていた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が言葉で伝えたいような課題を設定する。 【接続 (ア)】</li> <li>児童の状況に応じて、言葉を付け加えるなどして、児童同士の話が伝わり合うように支援する。 【接続 (ウ)】</li> <li>学校生活の中で身近なことを表す言葉などに触れさせ、児童の使用する語句の量を増やす。 【接続 (エ)】</li> </ul>	
	学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導上の留意点</li> <li>◎幼保小接続を踏まえた指導の工夫</li> <li>☆支援を要する児童への手立て</li> </ul>	評価規準 【観点】 (評価方法)
導入 (5分)	見通し 1 本時の課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎導入に「なにに見えるかな」クイズを設定し、児童の発表したい意欲を高める。 【接続 (ア)】</li> <li>・前時は、話合いで話すことについて考えたことを想起させる。</li> </ul>	
		はなしをたのしくつなぐことばをあつめよう。	
展開 (30分)	解決活動 2 教員とやり取りをしたり、教員と友達のやり取りを見たりして、話を楽しくつなぐ言葉を見つける。  3 タブレットを使って、話を楽しくつなぐ言葉を意識しながら、ペアで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく話をつなぐコツを確かめるために、皆の前で話したい児童を数名募り、教師と児童のペアでの話合いを見せる。</li> <li>・聞いている児童の態度や反応の中でコツにつながるものがあれば取り上げる。</li> <li>◎児童が見つけた話を楽しくつなぐ言葉は、話し合う際に活用できるように短冊に書き残し、言葉貯金として教室に掲示していくようにする。 【接続 (エ)】</li> <li>・言葉だけでなく、表情や姿勢、仕草などにも目を向けさせる。</li> <li>・教科書に掲載されている写真を1枚児童のタブレットに配布し、その写真について話し合うよう伝える。</li> <li>◎話合いごとに、新しく見つけたことや困ったことなどを共有させ、気付いたことを使って話合いが続くよう支援する。 【接続 (ウ)】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【知識・技能】 (発言・行動観察・ワークシート・ノート)</li> <li>・話を楽しくつなぐ言葉を使って、姿勢や口形、発声や発音に注意して話しているかの確認。</li> </ul>

展開 (30分)	解決活動		<p>◎望ましい話合いの仕方をしているペアやグループを取り上げ、皆の前でロールプレイさせ、やり取りの回数を増やしたり、気付いたことを使ってみたいという意識を高めたりする。 【接続(ウ)】</p> <p>☆話すことが分からないでいる場合、相手から聞き取ったことを復唱したり、話型を使って具体的な部分を確認する質問をしたりして促す。</p> <p>・教科書の他の写真も用意しておき、様々な写真について話し合えるようにしておく。</p>	
終末 (10分)	まとめ・振り返り	4 学習したことをまとめる。	<p>・本時で頑張ったことや成長したと思うことをノートに書いて発表させる。</p> <div data-bbox="344 622 1353 757" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>はなしをつなぐことばは、たくさんある。はなしをつなぐことばをつかうと、たのしくはなしをつなぐことができる。また、あいての目を見てきいたり、うなずきながらきいたりするとあいてがたのしくはなすことができる。</p> </div> <p>・次時は、今まで見つけた話を楽しくつなぐ言葉を使って、話をつなぎながら話し合うことを伝える。</p>	

(5) 板書計画

なに見えるかな

はなしをたのしくつないでおはなし名人になろう

がくしゅうけいかく

- 1 はなすことをかんがえる
- 2 はなしをつなぐことばをあつめよう
- 3 ともだちとはなす
- 4 まとめる

はなしをたのしくつなぐことばをあつめよう。

はなしをたのしくつなぐことばの力

- ・かわいいね。
- ・いいね。
- ・おもしろいね。
- ・たのしそうだね。
- ・なるほど
- ・どれがなにに見えますか。
- ・〇〇がうですか。
- ・どのぶぶんがうですか。
- ・〇〇はなにをしていますか。
- ・うなずく。
- ・えがおできく。
- ・おしえてくれてありがとう。

はなしをつなぐことばは、たくさんある。はなしをつなぐことばをつかうと、たのしくはなしをつなぐことができる。また、はなしをきくときは、あいての目を見てきいたり、うなずきながらきいたりするとあいてがたのしくはなすことができる。

ふりかえり

(4 / 6 時)

(1) 目標

前時に見つけた話を楽しくつなぐ言葉を使ってグループで話し合うことができる。

(2) 評価規準と評価方法

相手の話を受けてつなげる良さに気付き、相手の発言を受けて話をつないでいるかの確認。

(3) 準備物

教科書の写真、関連図書や図鑑、前時で出た「言葉の力」の短冊、考えたことを話すための話型、電子黒板

(4) 学習の展開

保育園・認定こども園で経験してきたこと		幼保小接続を踏まえた指導の工夫	
<ul style="list-style-type: none"> <li>クイズを楽しむ時間を設け、クイズを作って、出し合ったり答えてもらったりするなど、関わり合うことを楽しみながら聞いたり話したりしていた。</li> <li>友達の良いところを見つけて感謝の気持ちを伝えていた。</li> <li>保育者が、幼児の思いを代弁したり話合いに立ち合ったりすることで、自分の思いを伝えることができていた。</li> <li>当番活動のグループ名を班で決めたり、園の行事について意見を出し合ったりするなど、自分の考えを出したり相手の考えを受け入れたりしていた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が言葉で伝えたいような課題を設定する。【接続(ア)】</li> <li>自分の考えを伝え、教員や友達が話を聞いてくれる中で、相手と思いを共有することの楽しさや良さを実感できるようにする。【接続(イ)】</li> <li>児童の状況に応じて、言葉を付け加えるなどして、児童同士の話が伝わり合うように支援する。【接続(ウ)】</li> <li>学校生活の中で身近なことを表す言葉などに触れさせ、児童の使用する語句の量を増やす。【接続(エ)】</li> </ul>	
学習活動		<ul style="list-style-type: none"> <li>指導上の留意点</li> <li>◎幼保小接続を踏まえた指導の工夫</li> <li>☆支援を要する児童への手立て</li> </ul>	評価規準 【観点】 (評価方法)
導入 (5分)	見通し	1 本時の課題をつかむ。 ◎導入に「なにに見えるかな」クイズを設定し、児童の発表したい意欲を高める。【接続(ア)】 ・前時に集めた話を楽しくつなぐ言葉を確認させる。	
えがおではなすためには、どんなことにきをつけてはなしあうといいかな。			
展開 (30分)	解決活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>2 タブレットを見ながら、グループを作って話し合う。</li> <li>友達の話し方や聞き方の良いところを見つけて発表する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員が教科書に掲載されている写真から提示した1枚の写真に対して、三人一組のグループで話し合わせる。</li> <li>机一つを三人で囲む、机を全員分くつつける、机をよけて椅子だけで向かい合うなど、実態に応じて話しやすい形態を工夫する。</li> <li>うなづくことや相手の目を見ること、笑顔で話したり聞いたりすることなど、言葉以外の態度にも着目できるようにする。</li> <li>◎友達の話し方や聞き方の良いところを見つけて発言させるようにする。【接続(ウ)】</li> <li>◎言葉貯金やつなぐ言葉、話型などを使ってよいことを促す。【接続(エ)】</li> <li>☆話合いが停滞しているグループには、言葉がつながらなくてもよいので考えを聞いて思ったことを言ってみよう促したり、困っていることを尋ねて助言したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【思考・判断・表現】</li> <li>発言・行動観察</li> <li>相手の話を受けてつなげる良さに気付き、相手の発言を受けて話をつないでいるかの確認。</li> </ul>

<p>展開 (30分)</p>	<p>解決活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで楽しく話し合うための方法について考える。</li> <li>考えたことを話す役を交代して話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数で話すことに抵抗を感じる児童には、交互に発言するようしたり、他の児童に発言を促したりするなど、互いに認め合う雰囲気を大事にしながら応答する機会を多く経験できるように支援する。</li> <li>考えたことを話す役を交代するごとに話合いの時間を区切り、できたことや困ったことを発表させる。新しく見つけたことや気付いたことも発表させる。</li> <li>◎交互に発言するようしたり、他の児童に発言を促したりするなど、互いに認め合う雰囲気を大事にしながら話し合えるようにする。 【接続(イ)】</li> </ul>	
<p>終末 (10分)</p>	<p>まとめ・振り返り</p>	<p>3 学習したことをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時で頑張ったことや成長したと思うことをノートに書いて発表させる。</li> <li>新たに見つけたことを共有させるとともに、言葉をつないでもらって感じたことを発表させ、心情面への気付きを促す。</li> </ul> <div data-bbox="416 763 1251 853" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>あいてがたのしくはなせるように、ことばをつないだり、えがおできいたりすると、えがおではなしあうことができる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>次時は、今まで見つけた話を楽しくつなぐ言葉を使いながら、自分が作成した秋の作品について話し合うことを伝える。</li> </ul>	

(5) 板書計画

なにに見えるかな

はなしをたのしくつないでおはなし名人になろう

がくしゅうけいかく

1 はなすことをかんがえる

2 はなしをつなぐことばをあつめよう

3 ともだちとはなす

4 まとめる

えがおではなすためには、どんなことにきをつけてはなしあうといいかな

はなしをたのしくつなぐことばの力

(まえのじかん)

- ・かわいいね。
- ・いいね。
- ・なるほど。
- ・おもしろいね。
- ・たのしそうだね。
- ・どれがなにに見えますか。
- ・○○がですか。
- ・どのぶぶんがですか。
- ・○○はなにをしていますか。
- ・うなずく。
- ・えがおできく。
- ・おしえてくれてありがとう。

(きょう)

- ・ほんとうだ。
- ・○○がなんだね。
- ・目を見てきく
- ・いつしよだね。
- ・すこいね。
- ・わたし(ぼく)は○○とおもったよ。

あいてがたのしくはなせるように、ことばをつないだり、えがおできいたりすると、えがおではなしあうことができる。

ふりかえり

(5 / 6 時) 本時

(1) 本時の目標

互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて、つなぐ言葉や仕草を使って話し合うことができる。

(2) 本時の評価規準

互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなごうとしているかの確認。

(3) 準備物

生活科で制作した秋の作品を撮影したタブレット、関連図書や図鑑、これまで見つけてきた言葉や仕草を書いた短冊、電子黒板

(4) 学習の展開

保育園・認定こども園で経験してきたこと		幼保小接続を踏まえた指導の工夫	
<ul style="list-style-type: none"> <li>クイズを楽しむ時間を設け、クイズを作って、出し合ったり答えてもらったりするなど、関わり合うことを楽しみながら聞いたり話したりしていた。</li> <li>遊びのルールや工夫について友達と話し合い、会話を楽しんでいた。</li> <li>朝の会や帰りの会などで友達の良いところを見つけて感謝の気持ちを伝えていた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が言葉で伝えたいような課題を設定する。 【接続(ア)】</li> <li>自分の考えを伝え、教員や友達が話を聞いてくれる中で、相手と思いを共有することの楽しさや良さを実感できるようにする。 【接続(イ)】</li> <li>児童が安心して自分の思いを表現できるように、児童の言葉をしっかり受け止め、信頼関係を構築したり、児童が自己発揮できるような環境を整えたりする。 【接続(オ)】</li> </ul>	
	学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導上の留意点</li> <li>◎幼保小接続を踏まえた指導の工夫</li> <li>☆支援を要する児童への手立て</li> </ul>	評価規準 【観点】 (評価方法)
導入 (5分)	見通し	1 本時の課題をつかむ。	◎導入に「なにに見えるかな」クイズを設定し、児童の発表したい意欲を高めるような雰囲気づくりをする。 【接続(ア)】 ・前時までどんな学習をしてきたのかを振り返らせ、本時は、自分が生活科で作った作品について話し合うことを伝える。
			はなしをたのしくつないではなしあおう。
展開 (25分)	解決活動	2 話を楽しくつなぐ言葉や仕草を分類してまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれが学んだ楽しく話をつなぐ言葉や仕草について問う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>T: 今まで学習してきた話をつなぐこつは、どのようなものがありましたか。 S: 「いいね。」とか「なるほど。」とか。 S: 「〇〇はなにをしているところですか」と質問をしたら、話がつながります。 T: 話をつなげてもらえると、どんな気持ちになれますか。 S: 嬉しくなる。 S: 笑顔で聞いてくれたら、話すことが楽しくなります。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の挙げた言葉や仕草を分類してまとめ、「話を楽しくつなぐ言葉の力」として全体で共有する。</li> <li>今まで集めた言葉や仕草は、短冊に書き残しておき、児童から出た話を楽しくつなぐこつとして言葉の貯金をしていくようにする。児童が話をつなぐこつを貯めたり増やしたりする楽しさを味わうことができるようにしておく。</li> </ul>

<p>展開〔25分〕</p>	<p>解決活動</p>	<p>3 自分が制作した秋の作品について、タブレットを見せながら何に見えるかをグループで話し合う。</p> <p>・付箋に友達の作品の感想や良いところを文字で伝え合ったり、制作コーナーで制作をしたりする。</p>	<p>◎皆でまとめた「話を楽しくつなぐ言葉の力」を意識させて楽しく話合いができるようにする。 【接続(イ)】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>S1：私は、これが女の子に見えます。  S2：顔を描き入れていてかわいいね。  S3：かわいいよね。女の子は何をしているところですか。  S1：庭の掃除をしているところです。  S2：イチョウでほうきを表しているんだね。  S3：すごいアイデアだね。女の子のとなりにある家は女の子の家ですか。  S1：そう。  S2：この女の子はきれい好きなんだね。  S3：季節はいつですか。</p> </div> <p>・クイズ形式で紹介してみるなど、自分なりの表現方法を選択し、伸び伸びと自分の感じたことや考えたことを紹介できるように声をかけるようにする。  ・友達に紹介する際は、写真に直接書き込みを行い、分かりやすく説明してもよいことを伝える。</p> <p>◎友達の話す言葉に共感的に耳を傾け、話題に沿って話すことで、相手と思いを共有することの楽しさや良さを実感できるように支援する。 【接続(イ)】</p> <p>☆話すことが分からないでいる児童には、相手から聞き取ったことを復唱させたり、話型を使って具体的な部分を確認する質問をさせたりするよう促す。</p> <p>◎教室に付箋を準備し、話合いが終わった班には、作品の感想や良いところを友達に文章で伝え合えるように付箋に書かせる。 【接続(オ)】</p> <p>◎制作コーナーに秋の自然物を準備しておき、友達の作品を見てやってみたい、自分の作品に付け足してみたいと思ったことが実現できるようにする。 【接続(オ)】</p>	<p>【思考力・判断力・表現力】  (発言・行動観察)  ・互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなごうとしているかの確認。</p>
<p>終末〔15分〕</p>	<p>まとめ</p>	<p>4 単元を通して、頑張ったことや楽しかったと思うことを発表する。  ・友達の話合いの良いところを見つけて発表する。</p>	<p>☆思い浮かばない児童には、前時よりできるようになったことや特に意識した「言葉の力」を問うようにする。また、一緒に話合いをした児童から、良かったところや頑張っていたところを伝えてもらうようにする。  ・児童が安心して自分の思いを表現できるように、児童の言葉をしっかり受け止め、十分に聞くようにする。  ・共感的に話をつなぐことで、自分の考えを受け入れてもらえる安心感につながることに気付かせるようにする。  ・話し合うことの喜びや、やりがいを共有し、友達と話をつなぎながら自分のお気に入りの作品を紹介できたことの達成感を味わうことができるようにする。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「たのしくはなしをつなぐこつ」をつかうと、はなしをたのしくつなぐことができた。</p> </div>				

振り 返り	5本時で身に付いた力を振り返る。	・次時は、単元を振り返り、これからの学習や実生活で活用したい場面を考えることを伝える。	
----------	------------------	---	--

(5) 板書計画

ふりかえり

〇しつもんする

- 〇〇が〜ですか
- どのぶんが〜ですか
- 〇〇はなにをしていますか

しぐさ

- ・目を見てきく
- ・うなづく
- ・えがおできく

〇うけとめる

- ・かわいいね
- ・いいね
- ・おもしろいね
- ・〇〇が〜なんだね
- ・わたしは(ぼくは)〇〇とおもったよ

ことば

- ・たのしそうだね
- ・なるほど
- ・ほんとうだ
- ・すごいね
- ・いっしょだね
- おしえてくれてありがとう

なに見えるかな

はなしをたのしくつないでおはなし名人になろう

はなしをたのしくつないではなしあおう。

がくしゅうけいかく

- 1 はなすことをかんがえる
- 2 はなしをつなぐことばをあつめよう
- 3 ともだちとはなす
- 4 まとめる

「たのしくはなしをつなぐことば」をつかうと、  
はなしをたのしくつなぐことができました。

(6 / 6時)

(1) 目標

単元の学習を振り返り、自分の成長に気付くことができる。

(2) 評価規準と評価方法

学習を振り返り、頑張ったことや成長したと思うことなどを伝え合い、これからの学習や実生活で活用していこうとしているかの確認。

(3) 準備物

関連図書や図鑑、前時で出た「言葉の力」の短冊、電子黒板

(4) 学習の展開

保育園・認定こども園で経験してきたこと		幼保小接続を踏まえた指導の工夫	
<ul style="list-style-type: none"> <li>クイズを楽しむ時間を設け、クイズを作って、出し合ったり答えてもらったりするなど、関わり合うことを楽しみながら聞いたり話したりしていた。</li> <li>伝えたいことや楽しかったことなどを皆の前で発表していた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が言葉で伝えたいような課題を設定する。 【接続(ア)】</li> <li>自分の考えを伝え、教員や友達が話を聞いてくれる中で、相手と思いを共有することの楽しさや良さを実感できるようにする。 【接続(イ)】</li> </ul>	
	学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導上の留意点</li> <li>◎幼保小接続を踏まえた指導の工夫</li> <li>☆支援を要する児童への手立て</li> </ul>	評価規準 【観点】 (評価方法)
導入 (5分)	見通し	1 本時の課題をつかむ。 ◎導入に「なにに見えるかな」クイズを設定し、児童の発表したい意欲を高める。 【接続(ア)】 <ul style="list-style-type: none"> <li>前時にまとめた話を楽しくつなぐ言葉を確認させ、本単元でどんな学習をしてきたか振り返らせる。</li> </ul>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             がんばったことやせいちょうしたとおもうことをはっぴょうしよう。           </div>			
展開 (20分)	解決活動	2 学習を振り返り、互いの成長を確認する。 ◎単元を通して頑張ったことや成長したと思うことをノートに書いて発表させ、これからの学習や実生活で活用したい場面を考えさせる。 【接続(ア)】 <ul style="list-style-type: none"> <li>児童一人ひとりが自分の成長を実感できるように、できる限り全員発表させる。</li> <li>☆頑張ったことや成長したと思うことを発表することに抵抗感がある児童には、互いに頑張ったことを喜び合う場であることを伝え、他の児童と重複してもよいので、自分が一番頑張ったことを発表するよう促す。</li> </ul>	【主体的に学習に取り組む態度】 (ノート・発言) <ul style="list-style-type: none"> <li>学習を振り返り、頑張ったことや成長したと思うことなどを伝え合い、これからの学習や実生活で活用していこうとしているかの確認。</li> </ul>
終末 (20分)	まとめ・振り返り	3 単元の学習を振り返り、これからどのように生かしていきたいかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>今後予定している他教科の学習活動や休み時間における会話などにおいて、児童が学んだことをどのように活用していきたいかイメージできるようにする。</li> </ul>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             これからの生かつやがくしゅうで、たのしくはなしをつなぐこつをつかうと、あいてとたのしくはなすことができる。           </div>			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>本単元で学んだことを、今後の生活や学習に生かしていくよう促す。</li> </ul>	

(5) 板書計画

なにに見えるかな

はなしをたのしくつないでおはなし名人になろう

がくしゅうけいかく

- 1 はなしことをかんがえる
- 2 はなしをつなぐことばをあつめよう
- 3 ともだちとはなす
- 4 まとめる

がんばったことやせいちょうしたとおもうことをはっぴしようしよう。

がんばったこと・せいちょうしたこと

- ・しつもんをたくさんかんがえられた。
- ・ともだちにわかるようにはっきりはなしができた。
- ・たくさんの人とはなした。
- ・たくさんつなげてはなすことができた。
- ・ともだちの目を見てはなしたり、きいたりできるようになった。
- ・うなずいてはなしをきいた。
- ・ともだちのいったことをよくきいて、くりかえすことがうまくなった。

これからどんなことにいかせるかな

- ・先生やともだちとはなすとき
- ・ちいきの人にはなしをきくとき
- ・かぞくとはなすとき
- ・がっきゅうかいではなしあうとき

なしをつなぐことをつかうと、あいてとたのしくはなしことができる。

ふりかえり